令和７年度　学校経営方針（１学期）

佐世保市立吉井南小学校
校長　中村　雅男

１　教育方針

日本国憲法・教育基本法・学校教育法・学習指導要領にのっとり、長崎県・佐世保市の教育方針にもとづき、本校の児童や地域社会の実態及び保護者や時代の要請を踏まえ、「自らの将来に夢やあこがれを抱き、志の実現に向けて努力する子ども」を育て、子ども・教師・保護者すべての心がこだまし合う学校づくりをめざす。

全教職員が教育者としての使命感と責任感を自覚し、人格と指導力の向上に努め、創意を結集して、教育目標具現化のために一致団結して職責を全うする。

また、本校を取り巻く教育条件や教育環境、及び地域の実態を踏まえ、郷土及び社会の担い手として、新しい時代を創造できる心身ともにたくましい人間性豊かな子どもの育成に努める。

人間尊重の精神に徹し、教師と児童の信頼を築き、ともに人間性の高揚をめざし、心身を鍛え、知性を磨き、豊かな心を育み、自主・創造の精神に満ちた実践力のある子どもを育てる。

２　教育目標

「夢・あこがれをもち　笑顔あふれる吉井っ子」の育成

３　めざす児童像

◎ 思いやりのある子
◎ 進んで学習する子
◎ たくましい子

４　重点目標と具現化の方策

○　人間関係力　　他者を理解し、思いやりのある子どもの育成
○　考える力　　目標をもち、進んで粘り強く学習に取り組む子どもの育成
○　基礎体力（耐力）　心と身体を鍛え、困難を乗り越えようとする力をもった子どもの育成

スローガン　「○○のためにがんばろう！」

※　１学期の重点努力事項

「進級マジック」　子どもを変える最大のチャンス　新しい出会いを大切に　あせらずに
「ス　イ　ッ　チ」　子どものやる気「スイッチオン」のボタン見つけを楽しむ
「実感力の育成」　自分や友だちの成長を実感する力　今の自分をみつめる力　「○○のためになれた」

○「○○のためにがんばろう」の投げかけにより、目的意識をもたせる。
「○○」とは　→　自分　友だち　学校　１年生　６年生　家族　地域　…
「誰かのために力になれた」　→　「自己有用感」「自己肯定感」の醸成

○すべての授業の最後に子どもたちを褒める時間を設定する。
→　教師自身が褒めるセンスを磨く　→　子ども同士が褒め合える関係ができればしめたもの

＜具現化の方策＞

（１）明るく元気な人づくりを推進する

心のふれあいを大切にし、個の理解に努め、児童の人格（心）を育てる。
「折り合い」をつける力を身につけさせたい。

①　「自分から進んで、元気にさわやかなあいさつ」を推進する。

② 「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える子どもを育てる。
③ 基本的生活習慣の定着を図る。（心を整え、生活・学習への構えをつくる）
（はきものを揃える、しっかりと話を聴く、忘れ物をなくす）
④ 礼儀（言葉づかい）、節度、感謝を重んじ、けじめのある生活態度を育てる（教える）。
→　叱られ上手な子どもを育てる。
⑤　たてわり活動の充実を図る　→　「遊び」で子どもの心のスイッチを入れる

（2） みんなで支え合う学年・学級づくりを推進する
学校教育目標の具現化を図る学年・学級経営の実践に努める
① 子どもと教師、子ども相互の温かい人間関係と信頼関係をつくる（エンカウンター等の実践）。
② ふれあい、励まし合い、いじめのない集団づくりに努める。
③ 真に平等で安心感と居場所がある学級づくりに努める。
④ 子ども主体の教育活動を推進し、めざす子どもの姿を保護者・子どもにわかりやすく説明する。
⑤ ほんのちょっとのガマンの大切さ

（3） みんなで学び合う授業づくりを推進する
子どもの可能性を信じ、学び方を身につけさせることで子どもの「学びに向かう力」を育てる。
① 基礎・基本の徹底と思考力･判断力・表現力の育成に努める（鍛える）。
② 情報量は増大。すべての情報を覚えることは不可能。自分の思いや考えを発信する表現力が重要　→　「伝える力」　→　「相手に納得してもらう力」
③ 教師は子どもの学びのコーディネーター（話すのは子どもたち）
「教え上手」「教えられ上手」な子どもたちを育てる
→　子どもたちが自由に教え、教えられる姿がある授業を目指す　→　教師の授業に対する意識改革
④ 「自分の思い、考えを書く活動」を授業の中にふんだんに取り入れる。「書き耐える力」
⑤ 保護者との連携を図り、家庭学習の充実・基本的生活習慣の定着に努める。
⑥ 校内研修の充実を図ることで、わかる授業を推進し、学力向上に努める。（互見授業の活性化）
→　学力テストの過去問題への計画的な取り組み（求められる学力を見失わない）
⑦ タブレットを活用した、ICT教育の一層の推進（授業、家庭学習等、様々な教育活動への積極的な活用にチャレンジする）

（4） 道徳教育・人権教育の充実・強化を図る（体罰や暴言のない、「言葉」を大切にした教育）
人間の生き方についての学習を深め、子どもの心を育てる。
① 自尊感情を養い、自他の生命を尊重し、一人一人の人権を守る教育を推進する。
② 日常の生活において道徳的実践力を育てる。
③ 考える道徳、議論する道徳の授業の工夫改善に努める。
（「道徳の教科化」における評価の充実を図る）

（5） 個に応じた支援及び特別支援教育の充実を図る
心のふれあいを重視した教育活動を展開する。
① 家庭や関係機関との連携を深め、個々の実態把握とよりよい支援に努める。
② 一人一人に寄り添った指導、児童理解の共有とチームでの支援の充実・強化を図る。
③ 師弟同行の教育で、清掃活動など進んで奉仕する態度を育成する。

（6） 読書活動を推進する
ことばの力を育み、心を耕す読書活動を推進する。　→　「読解力」の向上
① 学校司書と連携し、読書環境の整備充実に努める。（図書館の学習情報センターとしての活用も推進する）
② 豊かな心を育む意図的・計画的な読書活動の展開に努める。（発達段階に則した本との出会い）

③ 意欲的な読書活動の推進をめざし、家庭と連携を図りながら、啓発や称賛に努める。

（７） 保健安全教育の充実・強化を図る

心身の健康についての関心を高め、児童の自己管理能力を育てる。

① 日常の安全点検、健康・安全指導を充実し、引き続き感染症・生活事故の防止に努める。
② 体育や休み時間、諸活動を通して自らを鍛え、体位・体力の向上と健康増進を図る。
③ 給食指導や日々の授業を通して食への関心を高め、望ましい食習慣を形成するとともに、食育の充実を図る。（食アレルギー対応確認）

（８） 特色ある学校づくりを推進する

学校の伝統と地域の特性を生かした学校づくりを推進する。
（ふるさと教育の推進：吉井南小といえば〇〇）

① 地域の「ひと・こと・もの」と連携した活動の充実を図る。
・「総合的な学習の時間」のカリキュラム再整備
・外部講師や関係機関との連携を図り、学習の充実に努める
② 伝統の継承と新たな文化の創造に努める。（地域を誇りに思う子どもを育てる）
③ 地域に飛び出し、地域を呼び込み、開かれた学校づくりに努める。
（保育園、幼稚園、近隣小・中学校との連携）

（９） 生き方を学ぶキャリア教育の推進（キャリアパスポートの活用）

夢をもちその実現に向けて挑戦する向上心、努力する忍耐力を育てる。

① 人との出会いを取り入れた学習活動を行い、夢やあこがれをもたせる。（様々な体験）
② 目の前の困難にしっかりと向き合い、志の実現に向けて挑戦しようとする態度を育てる。
③ 目標の実現に努め、継続することの大切さ、達成感を味わう体験を仕組む。

（１０）令和７年度のスタートにあたって

〇 信頼関係があってこその教育活動の充実
→ まずは子ども、保護者、地域の味方になるところから始めましょう。学校、教師が味方であることを認識してもらうための１学期になるよう心がけましょう。それをじっくりと「信頼」に育てていくことが大切です。

〇 味方として認識してもらうために
→ 児童のよい点も課題点も保護者と時間の許す限り直接話をしたり、電話をしたりして情報の共有に努めましょう。キーワードは「子どものために」です（保護者の携帯電話への連絡後の折り返しは、再度こちらからの連絡を心がけましょう）。

〇 職員同士のふれあいがあってこその「チーム吉井南」
→ 一人ひとりの職員が安心して仕事に向き合える環境づくりは欠かせません。互いにふれあいのある集団づくりを目指します。

〇 保護者に判断をゆだねる対応
→ 価値観の多様化により、保護者に対して学校・担任として「～です」「～します」と断言することが難しくなったと感じることが多くなってきました。こんな中、保護者に判断をゆだねる方法は効果的です。「学校（担任）としては～と考えますが、（保護者は）いかがされますか？」といった具合です。個人で判断できないものは遠慮なく校長または教頭へご相談ください。

〇 ウェルビーイングを目指して
→ 余力を残しての働き方ができているか、一度立ち止まって自分を見つめるよう心がけましょう。「ウェルビーイング（肉体的、精神的、そして社会的に、完全に満たされた状態にある）」を目指し、働き方改革にも積極的に取り組んでいきます。

〇 吉井北小との統合を視野に入れた教育活動の展開 → 吉井北小との交流学習（各学年）
→ 何を残し、何を切るか 統合に向けてのシュミレーション